

伝承を担うフィールドからまなび、ともに作り、地域へつなぐアートマネジメント人材育成 —伝統音楽・芸能の地域レガシーによる新たな価値創出を目指して—

育成する対象人材

1. 政府・自治体等の各担当者
2. 文化施設関係者
3. 伝統音楽・伝統芸能団体関係者
4. 学校教育関係者
5. 演奏者・演奏団体関係者
6. アートマネジメントに従事している者又は志す者
7. 当該地域の音楽・芸能を生かした地域創生等に関心がある一般居住者

人材育成の社会的意義

1. 法改正による人材育成の必要性
2017年文化芸術基本法改正/2018年の文化財保護法改正
◆ 地方自治体の役割が増加
・ 地域全体での伝統音楽・芸能継承の必要性
・ まちづくりへの活用
2. 在留外国人の増加による人材育成の必要性
◆ 社会における重要な課題
・ 多様な文化背景の人々との共生・社会包摂の促進
➔ 伝統音楽・芸能はこれらの課題の解決に貢献

育成プログラムの内容

- 令和4年度 「フィールドからまなぶ」
制作者が企画を立案・構成するにあたって、伝承の現場に足を運び学ぶためのプログラムを開発
- 令和5年度 「フィールドとともに作る」
伝統音楽・芸能を社会につなぎ、伝承の未来につなぐことを視野に入れた企画制作を検討し、展開
- 令和6年度 「フィールドと地域をつなぐ」
長期的視点から地域アイデンティティの共有を促すための方法論、現代日本で課題となっているアジア圏の異文化コミュニティの共生と包摂のための方法論を構築

「フィールドからまなぶ（令和4年度）」「フィールドとともに作る（令和5年度）」における育成の成果

■ 基礎講座（オンラインで実施）

- ◆ 令和4年度
フィールドからまなぶための基礎講座
(受講生80名)
- ◆ 令和5年度
伝承を担うフィールドと実践を展開するフィールドをつなぐための基礎講座
(受講生102名)



▲ 令和4年度講師
ウメトバエワ・カリマン
「楽器改良の歴史と現状—クルグス共和国のコムズを中心に—」

■ 実践セミナー

- ◆ 令和4年度
フィールドへの留学と成果の発信
留学先A 石原のささら 獅子舞 (3名)
留学先B 富士元囃子 (4名)
留学先C 長崎獅子舞 (2名)
留学先D インドタウン (4名)
- ◆ 令和5年度
芸能体験講座
・ インド舞踊、ガムラン、祭囃子の体験 (受講生26名)



▲ 長崎獅子舞の見学



▲ バリガムランの芸能体験

■ 企画制作研修（令和5年度）

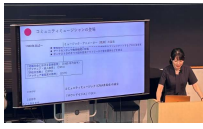
- ◆ 企画A 祭囃子をインクルージョン社会での生涯の学びにつなげるプロジェクト (受講生：8名)
- ◆ 企画B 獅子をつなぐプロジェクト ~三匹獅子舞をつなぐ“ことば”の再発見~ (受講生：6名)
- ◆ 企画C 日本とインドをつなぐ言葉とリズム ~ともに生きるための新しい音楽コミュニティづくり~ (受講生：9名)

令和6年度「フィールドと地域をつなぐ」における取り組み

■ 地域における実践を学ぶための講座

2024年7月20日（土）東京音楽大学開催

- ◆ 地域におけるコミュニティミュージックの実践
講師：藤山あやか
- ◆ ガムラン音楽の脱文脈化と多様なコミュニティの創出
講師：中川真
- ◆ 日本における南アジア系移民の現在地—移民政策とのかかわりから
講師：澤宗則 (受講生29名)



■ 企画制作研修

- ◆ 企画A 祭囃子を通したソーシャル・インクルージョンの実現 (受講生11名)
・ 8月4日(土)開催
地域における「貫井囃子」を知るの様子
- ◆ 企画B つながる・ローカル・三匹獅子舞～民俗芸能がおりなすコミュニティ形成 (受講生7名)
・ 9月14日(土)開催
川越の街から獅子舞につながるオリジナルMAPづくりの様子
- ◆ 企画C インドタウンのコミュニティミュージック2024 (受講生6名)
・ 9月29日(日)開催
コミュニティを知るの様子



■ ハンドブックの作成

「日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメントハンドブックⅡ ~フィールドから学び、ともに作り、地域へつなぐために~」

- 【目次】
はじめに
第1部 全体論
第2部 フィールドから学ぶ
第3部 フィールドとともに作る
第4部 フィールドと地域、フィールドとフィールドをつなぐ

※2025年3月刊行



■ オンライン講座(2024年7月30日配信開始)

政策・制度的な枠組みを学ための講座

◆ 地域文化政策論



講師：朝倉 由希
公立小松大学 国際文化交流学部 准教授
元・文化庁地域文化創生本部、
総括・政策研究グループ研究官

◆ 文化によるソーシャルインクルージョン社会の実現



講師：大澤 寅雄
合同会社文化コモンズ研究所 代表
文化生態観察

◆ 踊りを続けられないという選択から何を学ぶことができるか



講師：俵木 悟
成城大学文芸学部教授
民俗学・文化人類学

■ 10月以降開催のプログラム

- ◆ ラウンドテーブル
12月14日（土）東京音楽大学 池袋キャンパス
「地域伝統芸能の伝承コミュニティの課題と地域における多様な実践」
- ◆ 「フィールドからまなび、ともに作り、地域へつなぐためのアートマネジメント人材育成総括シンポジウム」
3月1日（土）東京音楽大学 池袋キャンパス

■ 今後の展望：令和7年度以降

◆ 東京音楽大学附属民族音楽研究所にて活動

- ・ 基礎講座/実践セミナー/企画制作研修で用いた映像や文献資料の管理
- ・ 日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメント人材育成プラットフォーム (TCM-JAM) の活用
- ・ 音源・文献資料、楽器等の総合アーカイブの充実とそれらを生かした研究活動への展開
- ・ シンポジウムやワークショップ、研究演奏会などを積極的に企画

伝承を担うフィールドからまなび、ともに作り、地域へつなぐアートマネジメント人材育成
—伝統音楽・芸能の地域レガシーによる新たな価値創出を目指して—
補足資料

東京音楽大学におけるアートマネジメント人材育成事業の目標と成果

◆人材育成の三つの目標

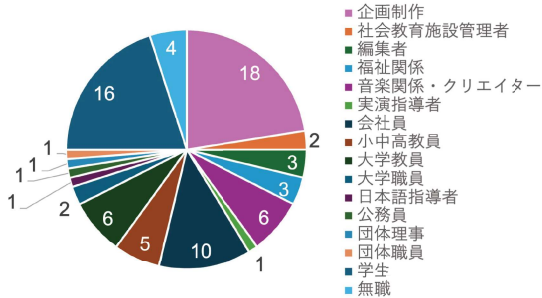
- ① 伝統音楽・芸能および伝承するフィールドを直接体験
- ② 伝承のフィールドのリアルな姿とそれを取り巻く地域・社会の課題に向き合う
- ③ 様々なフィールドの間との連携や若い世代への関心喚起、伝統芸能を社会で活用していく手法を学ぶ

◆期待される成果

- 地域レガシーとして伝統音楽・芸能の価値を捉え直す力の育成
- 企画の立案・実践に加え、フィールドのリアルを社会に発信し、フィールドからの相談にも応じられる「コーディネーター」としての力の育成
- フィールドと社会をつなげ、地域社会の発展のために多様な活動を展開する力を育成

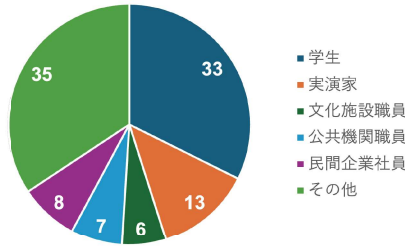
令和4年度・5年度の基礎講座における実績報告

◆フィールドからまなぶための基礎講座



受講生80人の内訳 (令和4年度)

◆伝承を担うフィールドと実践を展開するフィールドをつなぐための基礎講座



受講生102人の内訳 (令和5年度の結果)

◆受講生の声

【令和4年度】

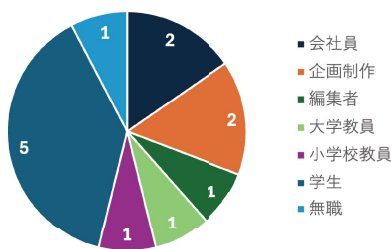
- ・伝統継承に携わる者として、新しい観点を知ることができた (40代、企業・団体職員)
- ・いつでも学べる本講座は大変有り難く、また振り返りもできる (40代、文化施設職員)

【令和5年度】

- ・芸術文化の継承の事例について大変興味深く拝見しました。(30代、教員)
- ・オンデマンドで受講できるため、気になった箇所について都度見返すことができ良かった (20代、学生)

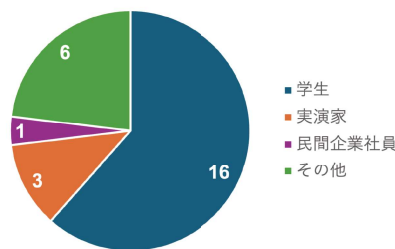
令和4年度 実践セミナー/令和5年度の企画制作研修における実績報告

◆フィールドへの「留学」と成果の発信



実践セミナー受講生13人の内訳 (令和4年度)

◆フィールドとともに作る



企画制作研修受講生26人の内訳 (令和5年度)

◆受講生の声

【令和5年度】

- ・「企画立案のための集中講座」で、いつもは1人か2人で企画を考えているのが、色々なバックボーンの方の意見を聞いてまとめてゆく進め方が参考になった (60代、自営業)

- ・日本の伝統芸能に触れる機会が少なかった為、その分野に興味を持てたことは嬉しい (50代、自営業)



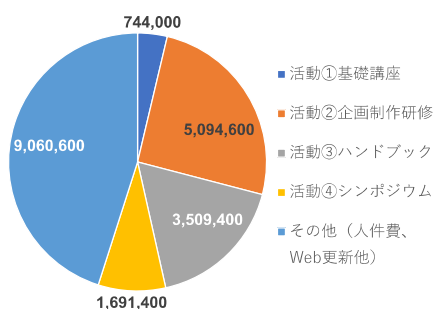
企画A 貫井囀子と一緒に考えよう (10/21開催)



企画B のぞいてみよう! 獅子を囲んだ直会(11/5開催)

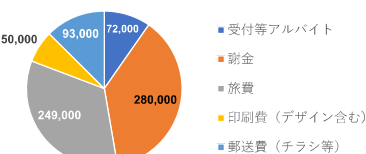
令和6年度 育成プログラムの取り組みと予算配分 (4月時点の予算金額)

◆令和6年度における予算配分

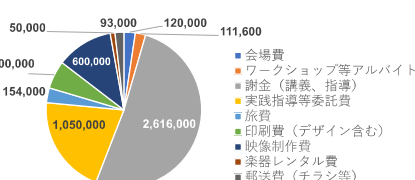


※申請金額合計: 20,100,000円

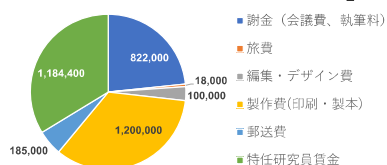
①フィールドを地域につなぐための基礎講座



②フィールドを地域につなぐための企画制作研修



③『日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメントハンドブックII』



④「フィールドからまなび、ともに作り、地域へつなぐためのアートマネジメント人材育成総括シンポジウム」

